

『LTspice で動作を見ながら OP アンプ回路を理解する ―基本的な活用から実用に必須な理論まで―』

正誤表

2023 年 3 月 27 日時点

頁	行	誤	正
101	本文下から 7 行目	$2.60 \times 10^{-18} \text{ V}$ 関連してそれ以降の「図(a) の $1.83 \times 10^{16}$ 倍です」	異なる数値（たとえば Ver. 17.0.32.0 では $5.33 \times 10^{-15} \text{ V}$ ）。 現時点では執筆時の転記ミスか LTspice のバージョン・アップでの計算精度/アルゴリズム変更による差異が原因か判別できません。いずれにしても本来は数値としてゼロになるもので、本文のように「LTspice の計算誤差の範囲」とご理解ください。
116	コラム下から 2 行目	千分の 1 ( $1 \times 10^{-5} \text{ A}$ )	千分の 1 ( $1 \times 10^{-15} \text{ A}$ ) -15 が正しいです。

119	図 1.30 (b)	OP アンプの入力端子が、上が非反転入力 (+)、下が反転入力 (-) になっています。	この図は間違いでキャプションにも「反転増幅回路」とあるように、上が反転入力 (-)、下が非反転入力 (+) になるのが正しいです。
239	図 5.6	OP アンプのシンボルの中央に記載している容量 $C_T$ が抵抗のシンボルになっています。	容量 $C_T$ が抵抗のシンボルになっているのは間違いで、本来は容量（コンデンサ）のシンボルが正しいです。
308	図 7.21	回路図中の素子定数が図 7.19 と同じになっています。	図 7.19（チェビシェフ LPF）は正しく、図 7.21（ベッセル LPF）は以下（次ページ）の図の素子定数が正しいものとなります。なお GitHub に登録してあるシミュレーション・ファイルは正しいものになっています。

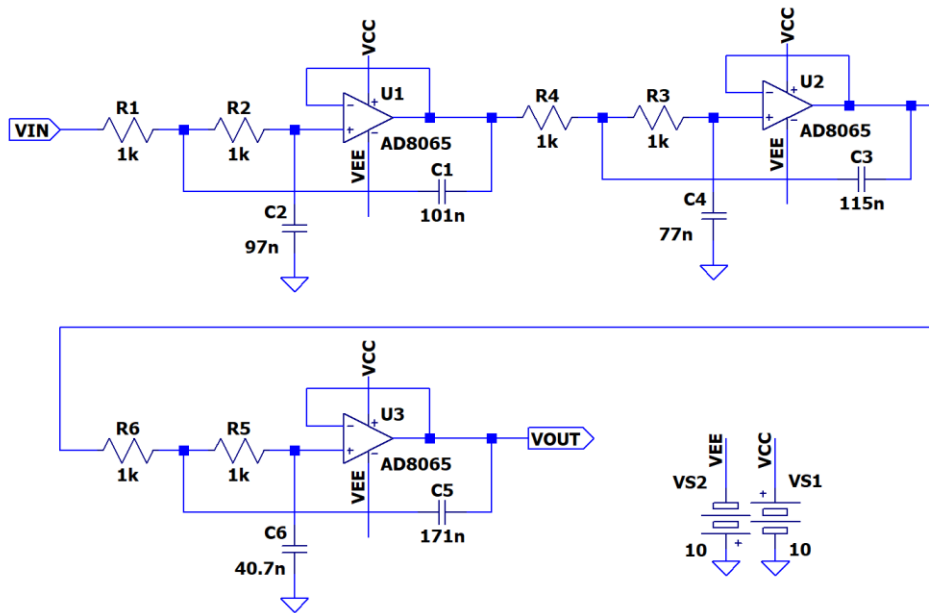


図 7.21 の正しい素子定数

--	--	--	--